

男爵穂積陳重博士逝く

吾中央大學創立者の一人たる樞密院議長男爵穂積陳重

博士は去月初めより健康を害せられ臥床療養中の處遂に狭心症に心臟麻痺を起し同月八日零時四十分眠るか如く薨去せられたり哀悼曷そ盡きん博士は舊宇和島藩儒學者穂積重樹氏の二男にして安政二年七月を以て生れ弱冠にして藩黌明倫館に學ひ貢進生と爲り東京に出て開成學校に法律を修め英國留學を命せられ同十二年獨逸伯林大學に入り法理學を研究し同十四年歸朝して東京帝國大學法學部の教授と爲り同十五年一躍法學部長に進み同二十年法學博士の學位を享け同二十三年貴族院議員に勅選せられたるか後議員を拜辭して法科大學教頭に任せられ次て大學長に榮進し同二十九年法典改正の功に依り勳二等に叙せられ後願に依り同教授を免せられ同時に名譽教授に任じ大正四年十二月多年學界に貢獻したる功を以て特に華族に列し男爵を授けられ、同五年一月樞密顧問官に親任せられ、同六年帝國學士院長に就任、昨年三月樞密副議長に、同十月濱尾子爵の後を承けて樞密院議長に親任せられたり、危篤の報天聽に達するや日頃の功を嘉せられ正二位に叙し特旨を以て位一級進めらる葬儀は十日青山齋場に於て執行せられたるか靈柩は午前九時自邸を出て家族親戚友人等附添ひ齋場に到着するや祭壇高く安置せられ聖上皇后兩陛下竝に東宮同妃殿下より御下賜の御櫛幣帛神饌を

雜報

奠し生前の勳功を語る旭日桐花大綬章を始め各種の勳章を供へ齋主以下多数の神職着床莊嚴なる神葬式を執行、齋主の祭詞朗讀ありたる後天皇陛下勅使、皇后宮東宮同妃殿下御使各玉串を捧けて御代拜を奉仕し次て皇族方御代拜を始め喪主重遠博士未亡人うた子刀自外家族親戚等の拜禮玉串を捧げ各方面の弔詞を捧げ東郷大勳位、若槻首相以下文武官議員華族教育家其他各方面の名士數千名會葬あり近來稀に見る盛儀なりき博士は吾中央大學の創立者の一人たりしのみならず爾來同校の維持員社員及評議員として四十有餘年間終始一貫同大學の爲めに盡瘁せられ去る十一月十四日同大學學員會は前學長岡野博士が樞府副議長と爲られたる當時正副議長を招待して祝賀の宴を催うしたるか兩博士共當日病を助けて出席、稍長時間に亘り挨拶の辭を述べられたるも神ならぬ人間の窺知し難きことにやあらん岡野學長曩に逝かれ穂積博士は其後二月二十七日開催の中央大學評議會に出席議事に關し彼是努力せられたるを最後に再び這般の不幸を見るに至らんとは天の吾校に累する甚た夫れ急なるや嗚呼哀哉葬儀當日中央大學學長馬場愿治博士の靈前に捧けたる弔辭左の如し

嗚呼天の我か中央大學に禍すること一に何を甚しきや去年今月江木先生を哭し其十二月岡野先生を喪ひ

今や穂積先生亦遽に去て白玉樓中の人と爲る痛嘆何ぞ夫れ堪ふへけんや惟ふに穂積先生は本邦學界の先覺儒林の耆宿、育英以て套運を開き立法以て治道を資け勳績赫々として人の耳目に輝き聖明之を録し舉世之を仰く明治十八年先生公務多端の身を以てして同志相議りて本學の前身英吉利法律學校を起し實地應用に適切なる英法を本邦に弘め其深邃の學術を提けて教壇に立ち法理の根源を説き其進化の沿革を講し諄々徒に誨へて倦む所を知らず創立以來既に四十年を超え業を受くる者萬を以て算へ此輩普く社會の各方面に據り其學ふ所を以て公私の事を執り直接に間接に交々世務を啓發す私に念ふ本學今日の盛運を致したるもの先生の指導に負ふ所頗る多く其幸に少しく國家に貢獻することを得たるもの亦實に先生の賚ものなり本學今や方に振作の運に際し先生の援助指導に待つこと甚た少からず此時に當り不幸にして遽に此創業の一大恩人を喪ふ痛嘆何ぞ夫れ堪ふへけんや茲に先生の葬を送るに當り謹て弔辭を靈前に捧けて永訣を告ぐ